

岩淵直助 戦後、農山漁村文化協会を率い、独自の文化運動を展開した。

いわぶちなおすけ

韓国反日暴動1907 = 岩手県西磐井郡涌津村で、関東御家人の末裔でまとめ役農家岩淵清三郎・カメヨの次男に生まれる。

明治天皇没・1912 = 5歳 :

わずかな水田にしがみついて暮らす農村の窮乏ぶりを見ながら育つ。

民本主義・・1916 = 9歳 :

原敬首相暗殺1921 = 14歳 : 村立涌津小学校高等科2年を修了し、隣の宮城県若柳町にあった県立栗原農学校に入学、

治安維持法・1925 = 18歳 :

円本時代始・1926 = 19歳 : 卒業すると、進学を志して上京し、英語学校を経て、

共産党事件・1928 = 21歳 : 日本大学予科に編入学、

文学同人誌{ボエチカ}に訳詩を載せたり、中原中也らの同人誌{新紀元}にも参加、

満州事変・・1931 = 24歳 :

大正デモクラシーの影響を受け、アメリカの民衆詩人ホイットマンをテーマに卒論を書いて、

国際連盟脱退1933 = 26歳 : 日本大学法文学部英文科を卒業。東京市牛込区役所の臨時雇いとなり、

帝人疑獄事件1934 = 27歳 : 藤原ミツと結婚。

二二六事件・1936 = 29歳 : 正式に東京市役所書記となって、経済局商工課に勤務、

日中戦争始・1937 = 30歳 :

小工業者の調査と経営指導に没頭するも、上司と意見が合わず、

大政翼賛会・1940 = 33歳 : 東京市役所を退職し、戦時統制団体の日本石炭株式会社に入社、

日米開戦・・1941 = 34歳 :

創価学会検挙1943 = 36歳 : 退職し、軽金属統制会に入所。総務部勤労課に属し、軽金属工業関係会社の労務管理など指導するうち、

年金+総武装1944 = 37歳 : 弟信雄がニューギニアで戦死、

敗戦・・・1945 = 38歳 : 敗戦となり、自らの戦争責任を感じて退職。

新憲法公布・1946 = 39歳 : 戦後インフレに困窮し、紹介を得て、*社団法人農山漁村文化協会に入る。常任理事の古瀬伝蔵の独裁的な

新憲法施行・1947 = 40歳 : *さらに委員長になる一方、月刊誌{農村文化}編集発行人となり、以後、没するまで続ける。

三大事件・・1949 = 42歳 : 古瀬伝蔵の公職追放に関連する諸事情から経営危機に陥り、

単行本を発行し、農村への講習会や映画演芸派遣など試みるも空しく、山田多賀市という曲者に振り回される

などした後、_常任理事となり、多くの知識人の協力や彫刻家佐藤忠良の表紙画を得て一新した{農村文化

}の直接販売を始め、率先して農村に入るなど再建に踏出す。

独立回復・・1951 = 44歳 : スライドの肥料シリーズなど順調になるも、雑誌の赤字は続いて、存廃闘争となるなか、

メーデー事件・1952 = 45歳 : 血のメーデー事件に連座して多数の検挙者が出るなど、再び経営の危機を迎えるが、

自衛隊発足・1954 = 47歳 : _スライド「有利なきりの栽培」を制作し、文部大臣賞を受賞。以後、連年各作品が受賞して行く。

村上龍太郎会長の信頼のもと、家庭を省みる暇もなく仕事に没頭していたことから、

息子が精神に異常を来す。_自らの一存で、第一次五カ年計画を立案し、旅行会も開始、以後連年続く。

なべ底不況・1957 = 50歳 : 実施に移るも、全員無理解のなか、孤立した闘いが続くが、単行本の販売に力を入れ、自ら先頭に立って

全国書店を回ると飛躍的な売上げ増となり、収入もトップになって、東販の常備寄託を始める。

娘は駆落ち結婚で家出、母の死去などで、息子はついに入院。「かあちゃんの生産学級」から 映画も始め、

経営内部の不安定さを解決する目途が立たないこともあって、理事返上を申し出るに至るも慰留され、

安部闘争・・1960 = 53歳 : 温泉に籠って自問自答の上、部次長宛に私信"谷川書簡"を書く。*わずか3年で目標達成、経営確立の基礎が

できると、第一次十カ年計画に着手、専務理事となり経営権を確立。雑誌を{現代農業}と改題。

タイタイ病始・1961 = 54歳 :

全国総合計画1962 = 55歳 : 新人普及職員養成のため、長期にわたる講習を始め、以後、連年実施。

TV宇田中継始1963 = 56歳 : 農村文化運動理論化のため「農文協の歴史」「文化財論」「普及論」を発表、

いざなぎ景気1966 = 59歳 : 職員教育制度を抜本的に改革。_「豚の繁殖と生産」が日本教育映画祭で最高賞、以後受賞続いても採算割れ。

美濃部都知事1967 = 60歳 : 「農文協の歴史」「文化財論」「普及論」による職員研修も始める。

霞ヶ関ビル・1968 = 61歳 : 目玉の加除式「農業総覧」や雑誌普及をはじめ予定以上の成果を上げ、_十カ年計画を達成し、

大阪万博・・1970 = 63歳 : 創立三十周年記念に赤坂事務所・練馬書庫を完成させると、第二次十カ年計画に着手し、図書館の{文協

社}を設立する一方、外部勢力による突然の造反文書事件が発生するが、労組と一体となって危機を克服。

職員の内外部研修を定例化、以後、現在まで定着。

ドクショック・・1971 = 64歳 : _自ら調査した「ある部落の農業経営史」発表。文化運動用映画「野菜の値段のからくり」が映画祭最優秀賞。

沖縄返還・・1972 = 65歳 : 雑誌で石油危機の本質を告発し、翌年単行本「石油文明と人間」を刊行、後、{人間選書}に収録。

石油ショック1973 = 66歳 : _内部研修で、「自給の思想と自我の確立」を発表、編集プロダクション{新制作社}を設立。

角栄金脈辞任1974 = 67歳 : 「農村文化運動理論」の草案を発表、以後、一年内部討議。「近世稲作技術史」で日経経済図書文化賞。

クアンパル事件1975 = 68歳 : 「人間選書」を企画・創刊、「自給の思想と自我の確立」の収録を皮切りに、現在もなお刊行継続中。

JALハイジャック・1977 = 70歳 : 「農村文化運動理論」に、外部からの意見を含めて、人間選書「文化運動論」として発行。人間選書「生活の主

張」を発行し、「形象化論」を発表。_{日本農書全集}を企画着手。会長就任要請も固辞して現場に専念。

革新大敗北・1979 = 72歳 :

貿易摩擦問題1980 = 73歳 : 第三次十カ年計画に着手、農村だけでなく文化運動の対象を都市消費者にも広げる。

・・・・・1981 = 74歳 : 農文協図書館を財団法人として設立。_年来の主張「ドブコをつくらう」を単行本として発行し、全国に波

紋、ベストセラーとなる。

中曾根内閣・1982 = 75歳 : 「安藤昌益全集」を企画し、刊行開始。

デイズニューズ1983 = 76歳 : 全国の支部に事務所・職員寮建設を完了。_{日本農書全集}第一期が完結、引き続き第二期の刊行開始。

・・・・・1984 = 77歳 : この年まで続けてきた職員養成講習を止める。_「聞き書日本の食生活全集」(全50巻)を企画、執念の決勝「岩

手の食事」から刊行開始すると、大反響。農文協副会長となる

ジャパ機墜落1985 = 78歳 : 創立45周年記念に岩淵直助著「文化運動基本文献集」全二巻を刊行。十二指腸潰瘍で救命手術を受ける。

竹下内閣・・1987 = 80歳 : 「安藤昌益全集」が完結し、毎日出版文化賞特別賞、

リクルート事件・1988 = 81歳 : 第三回梓会出版文化賞となり、さらに別巻「安藤昌益事典」が第二回物集索引賞を受ける。

昭和天皇没・1989 = 82歳 : 株式会社三進社設立。*「聞き書日本の食生活全集」が農業ジャーナリスト賞を受けるも、その完結を見るこ

となく、没した。

原田勉「評伝岩淵直助」、